

消費者教育 実践事例集

次世代を担う学生自身が 消費者市民社会の形成について考え、 提案力を養う消費者教育学生セミナー

柿野 成美 Kakino Shigemi

日本消費者教育学会常任理事、消費者教育学生セミナー実行委員長

昭和女子大学大学院福祉社会・経営研究科特命教授、公益財団法人消費者教育支援センター理事・首席主任研究員、主な著書は『消費者教育の未来—分断を乗り越える実践コミュニティの可能性』（法政大学出版局、2019年）

2025年度の消費者教育学生セミナー（以下、本セミナー）は8月29日（金）に独立行政法人国民生活センター東京事務所からの配信でオンライン開催されました。本セミナーは、日本消費者教育学会と国民生活センターとの共催事業として、消費者庁、文部科学省の後援を受けて毎年実施されているもので、2025年度の参加者は全国各地から30名となりました。

セミナーの目的と位置づけ

本セミナーは、消費者教育に関する研究の推進を支援するとともに、大学間の交流を通じて消費者教育への理解を深めることを目的としており、大学生・大学院生を対象として実施されています。近年、デジタル化の急速な進展やSNSの普及に伴い、若年層の消費者被害が社会的な問題となっています。こうした背景のもと、次世代を担う学生自身が消費者市民社会の形成について主体的に考え、提案できる力を養う場として、本セミナーは年々その意義を高めてきています。

プログラムの概要

今回、セミナーに先立ち、3つの事前動画視聴課題が設けられました。1つ目は、大藪千穂本学会長（岐阜大学副学長）による「消費者市民社会における消費者の役割」の講義で、消費者市民社会の概念や消費者が果たすべき役割について、理論的・実践的な観点から解説がなされました。2つ目は河原佑香会員（消費者教育支援センター副主任研究員）による「消費者の行動力を高めるアクティブラーニングの教材紹介」で、学生

が当日のグループワークに向けて主体的に取り組む姿勢を醸成するための内容でした。3つ目は、弘前大学教育学部加賀恵子研究室の学生プロジェクトKirschbaumによる「デジタル社会における幼児期の消費者教育」で、大学生が幼児期の子ども達に対して実施したすごろくゲームの紹介でした。参加者はあらかじめこれらの動画を視聴したうえでセミナーに臨むことが求められており、事前学習と当日の活動を有機的に結び付けるよう工夫しています。

セミナー当日は、開講・オリエンテーションの後、グループに分かれ、小田奈緒美会員（金城学院大学准教授）によるファシリテーションのもと、自己紹介・アイスブレイクが行われました。初対面同士の参加者が打ち解けてグループワークに集中できるよう、場の雰囲気づくりに工夫が凝らされていました。

その後、「みんなでつくる消費者市民社会のための消費者教育の提案」をテーマに、アドバイザー講師の助言のもと6グループに分かれてワークショップが行われました。テーマの説明とワークショップの進め方については、実行委員長の筆者より説明を行いました。

グループ討議と発表

ワークショップにおけるグループ討議では、オンライン上の共有ファイルを同時に作業ができる機能を使って、役割分担を決めてスムーズに進行していました。各グループでは、司会・記録・発表者などの役割を分担しながら、午前・午後の長時間にわたって活発な意見交換が行われました。異なる大学・専攻の学生が一堂に会する

オンラインセミナーならではの多様な視点が、議論に深みをもたらしていました。

午後の発表では、各グループが討議の成果を発表しました。天野晴子本学会副会長(日本女子大学教授)より総括的な講評が行われ、各グループの発表の特徴や優れた点が丁寧に紹介されました。また、最も優れていると感じた発表に対し、全参加者が1票を投じ(学生は自分のグループ以外への投票)、最優秀賞、優秀賞、特別賞を選出しました。受賞グループには表彰状ならびに記念品が贈られ、参加者の達成感と次なる学びへの意欲を高める締めくくりとなりました。

図表 受賞グループの提案タイトル

最優秀賞	食材カードゲームで楽しく学ぶ！ 作ってもぐもぐ食べ残しゼロ作戦！！
優秀賞	人生詐欺撲滅ゲーム ～正しい見極め方・断り方～
特別賞	エシカルコンシューマーを目指した 消費行動について考えよう！

参加者の感想

- この講義を通じて、初めて出会った方々とグループワークを行うことは今後社会人になる私たちにとってよい経験になると思えました。
- 他大学の方と交流する機会がなかなかない中、グループディスカッションという形でコミュニケーションが取れたことが今回のセミナーに参加して一番良かったと思えました。
- 短時間でグループワーク、スライド作成、発表と、まるでインターンのような内容を行うことができました。またタイムマネジメント力やプレゼン力を身に付けることが必要となる場面が多くありました。
- 事前動画の内容がとても参考になりました。それを参考に具体的な提案を考えたことで、主体的に取り組んでいく姿勢を学ぶことができました。

おわりに

参加者の感想に共通しているのは、「他大学との交流」「主体的な学び」「実践的なスキルの習得」への高い評価です。本セミナーは、単なる知識の習得にとどまらず、グループワークや発表を通じて、コミュニケーション力・問題発見力・提案力といった社会人基礎力を育む貴重な機会となっています。また毎年、学生のICTの活用レベルが上がっており、短時間で作成する教材のクオリティーが非常に高いことに驚かされます。

2026年度も引き続き、より多くの学生が消費者教育の意義と面白さを体感できるセミナーの実施を目指してまいります。全国どこからでも大学生、大学院生の参加が可能ですので、この原稿をご覧の行政担当者の方は、是非、地域の大学生・大学院生にお声掛けいただければ幸いです。

最後に、本セミナーの開催にあたり、ご支援・ご協力を賜った国民生活センターの皆様、記念品を提供して下さった第一生命株式会社様、ならびにアドバイザー講師、実行委員の皆様には大変ご尽力をいただきました。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

令和8年度 消費者教育学生セミナー

参加者
募集中!

日時 令和8年8月28日(金)

開講 10:00 閉講 16:30(オンライン)

申込 令和8年7月7日(火)～8月14日(金)

※申込期間は予定

※今後、国民生活センターのウェブサイトに掲載するフォームより、お申し込みください。

事前動画視聴課題が3本用意されています。全国の大学生・大学院生と交流し、消費者市民社会実現に向けた消費者教育の提案を皆さんと一緒に作りましょう！

主催：日本消費者教育学会、独立行政法人国民生活センター